学級の状況・個人の学級満足度と学習意欲の関係
～学力の低い児童に視点をあてて～

独立行政法人日本学術振興会
平成27年度科学研究費助成事業
（科学研究費補助金）（奨励研究）

1　研究の目的

学力の向上には、子どもたちが所属する学級が安心できる状況にあること、学級の友達から認められていると思えることが必要不可欠である。少なくとも、学級が荒れている状況下では、学習意欲は低下し学力向上は望めない。以上のことから、桑名市では、この2年間、学級満足度調査（QU調査、Hyper-QU調査）を年2回、小学校4年生以上の児童及び中学校の生徒すべてに実施し、学級の状況や個人の状況を把握し、それぞれの向上を目指しながら、取り組んできた。1回目の調査から、学級が目指すべき方向性に向けた取り組みと、個人の状況に応じた指導支援を実施し、一定の成果を得ることができることが分かった。特に小学校では、取り組みの成果が大きく現れることが分かった。しかしながら、学級の状況が改善され個人の満足度が上がれば、学習意欲が上がり学力向上に向いていくというところは感覚的なところでしかない。

以上のことから、学級の状況・個人の学級満足度が向上すれば、学習意欲が向上し学力向上に向かうことについてデータをもとに明らかにする。また、学力の低い児童や満足度の低い児童へのアプローチや支援方法を合わせて調査することで、効果的なアプローチ方法や支援方法を明らかにする。
中学校より小学校の方が取り組みの成果が大きく現れることから、対象は小学校4年生から6年生とする。

2　研究の流れ

4月　調査研究に協力していただく学校を選定する。
　　調査内容・調査方法を十分に説明し、協力いただく小学校を公募する。
6月　1回目Hyper-QU調査（学級満足度調査）、標準学力検査（CRT）を実施する。
　　4月～7月　国語・算数評価テスト、小テストの実施
　　評価テストとは、単元末に実施するテストである。
　　小テストは、国語の漢字テストと算数の計算問題テストである。
　　これ以降、国語の評価テストは国語テスト、算数の評価テストは算数テスト、国語の小テストは漢字小テストと表記する。算数の小テストは実施した学級としなかった学級があり、分析には使用しなかった。
11月　2回目Hyper-QU調査（学級満足度調査）を実施する。
　　9月～12月　国語・算数評価テスト、小テストの実施
12月　担任による学級指導・個人指導についてのアンケート調査
1月　分析

○2回のHyper-QU調査結果の変化や2回の評価テスト・小テストの結果の変化から、学級や個人の状況と各テストや学習意欲の関連性について調べる。
○Hyper-QU調査・CRTから学級満足度の低い児童、CRTの結果の低い児童を抽出し、教師の支援方法と2回のHyper-QU調査の変化や2回の評価テスト・小テストの結果の変化から、その関連性について調べ、有効な支援方法を明らかにする。
○個人情報を扱うことから、その管理には十分に注意を払う。研究が終了した段階で、個人情報は確実に処分する。

3　研究仮説

仮説1　学級の状況・個人の学級満足度が向上すれば、学習意欲が向上するだろう
仮説2　低学力、学級満足度の低い生徒へは丁寧なアプローチで、学習意欲、学級満足度が向上するであろう。

4　分析方法

（1）　**仮説1**について
　①　個人：承認得点・被侵害得点の変化　と　各テストの個人平均点の変化

② 学級：学級の状況の変化　と　各テストの学級平均点の変化

学級のタイプ　親和的なまとまりのある学級、かたさのある学級、ゆるみのみらえる学級、規律と人間関係が不安定になっている学級

③ 学級づくり3つのアプローチ　と　評価テスト、小テストの学級平均点の変化

3つのアプローチとは、

明るく楽しい学級になるよう取り組んだ。

自分の役割をきちんと果たすとともに、協力し合える学級となるよう取り組んだ。

お互いの良さが認められ、思ったことが言い合える学級となるように取り組んだ。

4段階　非常によくあてはまる　／　かなりあてはまる　／　少しあてはまる　／　まったくあてはまらない

(2) **仮説2**について

① 学習にかかわる4つの支援と、各テストの個人平均点の変化

【学習にかかわる4つの支援】

放課後や休み時間などで個別に学習指導を行った。

教科の授業の中で、学習内容の理解ができるよう、担任が意識して個別的に支援を行った。

教科の授業の中で、発言したり質問したりできるよう、個別的に支援や配慮を行った。

放課後や休み時間などで、勉強について頑張れる（努力できる）よう個別に教育相談をしたり支援をしたりした。

② 友だちにかかわる3つの支援と、被侵害得点、承認得点の変化

【友だち関係にかかわる支援】

対象となる児童に対して、親切にしてくれるクラスメートをあてて支援した。

対象となる児童にかかわっているクラスメートに対して、対象となる児童との人間関係が強くなるように取り組んだ。

対象となる児童にかかわろうとするクラスメートが増えるよう取り組んだ。

(3) 相関係数と相関の強さについて

相関係数と相関の強さについては、次の表にならった。

0～0．2	相関なし
0．2～0．4	弱い相関あり
0．4～0．7	相関あり
0．7～1	強い相関あり

5 調査期間

CRT　実施日　2015年4月21日～5月29日

QU 1回目実施日　2015年5月29日～6月22日

QU 2回目実施日　2015年11月6日～11月25日

教員アンケート実施日　2015年12月9日～2016年1月8日

各テスト　1回目：4月から7月までのテストごとの平均

2回目：9月から12月までのテストごとの平均

国語の評価テスト、算評の評価テスト

単元末テストの平均。おおよそ100点満点のテストであるが、時には150点満点や200点満点の場合があった。この場合は、100点換算をしてから平均を出している。

学校により、単元末テストの内容は異なる。

1回目：4月から7月までの単元末テストの平均

2回目：9月から12月までの単元末テストの平均

国語の小テスト＝漢字のテスト

漢字の小テスト。10点満点のものが多い。100点換算をしてから平均を出している。

学校により、漢字テストの内容は異なる。

1回目：4月から7月までの漢字テストの平均

2回目：9月から12月までの漢字テストの平均

算数の小テスト＝計算問題の小テスト

計算のテストがほとんど。10点満点のものが多い。100点換算してから平均を出している。実施していない学校があることから、分析には使用しなかった。。

1回目：4月から7月までの算数小テストの平均

2回目：9月から12月までの算数小テストの平均

6　有効調査数

（1）　データがそろっていないものは削除

QU調査1回目のみ、または、2回とも実施されていないものは削除

QU調査で承認得点、被侵害得点のいずれか、または、両方とも空欄であるものは削除。

CRTのみ未実施は利用する。

国語評価テスト、算数評価テストのいずれか、または、両方ともないものは削除。

⑵　有効データ数

「学級の雰囲気」に不備があった「H6225」は、学級の雰囲気との相関を調べるときだけ削除。

「H6225」データの除いて、有効データ数は290名

調査数　316名　　有効データ数　290名

また、学級満足度が低い児童、CRTの結果が低い児童等で抽出した児童数は30名。そのうち、データ不備等のため4名を削除したことから、有効データ数は26名となった。

7　分析結果

（1）　**仮説1**

①　個人：承認得点・被侵害得点の変化　と　各テストの個人平均点の変化

ア）個人：承認得点・被侵害得点の変化　と　各テストの個人平均点の変化

4小学校11クラス、学校及び学年ごとに評価テスト・漢字小テストが異なること、漢字小テストは学級ごとにテストが異なる可能性もあることから、個人の平均点と学級平均点との差の変化に視点をあてて、それぞれ相関関係をみた。

・承認得点の変化と学級平均との差の変化　→ 相関なし

・被侵害得点の変化と学級平均との差の変化　→ 相関なし

イ）　**H小5年、6年は3クラスありデータ数が多いこと、同学年内は同じ評価テストが使われていることから、個人の平均点と学年平均点との差の変化から、相関関係をみた。**

・承認得点の変化と学年平均との差の変化　→ 相関なし

・被侵害得点の変化と学年平均との差の変化　→ 相関なし

ウ）　個人の平均点の変化

H小5年、6年は3クラスあり、データ数が多いこと、同学年内は同じ評価テストが使われていることから、個人の平均点から相関関係をみた。

・承認得点の変化と個人の平均点の変化　　→ 相関なし

・被侵害得点の変化と個人の平均点の変化　　→ 相関なし

【追加分析1】　承認得点、被侵害得点とHyper-QU調査にある学習意欲の関係を調べた。
全有効データを用いて分析した。

	a）承認得点と学習意欲	b）被侵害得点と学習意欲	c）学級の雰囲気と学習意欲
1回目QU	0.561	-0.216	0.473
2回目QU	0.545	-0.293	0.422

d）承認得点変化と学習意欲変化	e）被侵害得点変化と学習意欲変化	f）学級の雰囲気の変化と学習意欲変化
0.262	-0.043	0.296

a）承認得点と学習意欲には相関がある。友だちからの認められるほど、学習意欲は高い。

b）被侵害得点と学習意欲には弱い負の相関がある。友だちから嫌がらせを受けると、学習意欲が低くなる傾向になる。

c）学級の雰囲気と学習意欲には相関がある。学級の雰囲気が高いほど、学習意欲は高い。

d）承認得点の変化と学習意欲の変化には弱い相関がある。現状より友だちから認められる程度が高まると、学習意欲もやや高まる傾向にある。

e）被侵害得点の変化と学習意欲の変化には相関がない。現状より友だちから嫌がらせを受けるように変わってきたとしても、学習意欲に変化はない。

f）学級の雰囲気の変化と学習意欲の変化には弱い相関がある。現状より、学級の雰囲気がよくなっていくと、学習意欲もやや高まる傾向にある。

【追加分析2】　学習意欲と各テスト、学習意欲変化と各テスト変化の関係を調べた。H小5年、6年は3クラスあり、データ数が多いこと、同学年内は同じ評価テストが使われていることから、1回目と2回目のデータを使用して相関関係をみた。ただし、漢字小テストは学級によってテスト内容が異なる可能性がある。

	a）学習意欲と国語テスト	b）学習意欲と算数テスト	c)学習意欲と漢字小テスト
H小5年 85名	0.206　（1回目） 0.249　（2回目）	0.154　（1回目） 0.083　（2回目）	0.236　（1回目） 0.204　（2回目）
H小6年 87名	0.233　（1回目） 0.171　（2回目）	0.231　（1回目） 0.072　（2回目）	0.352　（1回目） 0.134　（2回目）

a) 学習意欲と国語テストには弱い相関がある。
b) 学習意欲と算数テストには相関がない。
c) 学習意欲と漢字小テストには弱い相関がありそうである。

	学習意欲変化と国語テスト変化	学習意欲変化と算数テスト変化	学習意欲の変化と漢字小テスト変化
H小5年（85名）	0.183	0.074	0.051
H小6年（87名）	0.012	0.052	0.003

学習意欲の変化と各テストの変化には相関がない。

② 学級：学級の状況の変化 と 各テストの学級平均点の変化

1回目Hyper-QU調査	2回目Hyper-QU調査	学級数
かたさのある学級	規律と人間関係が不安定になっている学級	1
かたさのある学級	親和的なまとまりのある学級	2
かたさのある学級	かたさのある学級	3
親和的なまとまりのある学級	親和的なまとまりのある学級	5

合計
11学級

学級の状況の変化と国語テス・算数テスト・漢字小テストの学級平均点の変化に特徴的なところはなかった。

Hyper-QU調査にある学習意欲の変化との関係についても調べたが、特徴的なところはなかった。

【追加分析3】 学級の状況 と 各テスト、学習意欲の関係を調べた。

11学級2回の調査があることから、のべ22学級のデータで調べた。

	国語テストの平均	算数テストの平均	漢字小テストの平均	学習意欲
親和的なまとまりのある学級	87．0	86．2	88．6	10．2
かたさのある学級	86．9	81．4	88．1	9．3
規律と人間関係が不安定になっている学級	84．2	85．2	85．2	9．3

親和的なまとまりのある学級では、各テストの点数、及び、学習意欲が最も高くなっている。

③ 学級づくり3つのアプローチ と 評価テスト、小テストの学級平均点の変化

3つのアプローチ

明るく楽しい学級になるよう取り組んだ。

自分の役割をきちんと果たすとともに、協力し合える学級となるよう取り組んだ。

お互いの良さが認められ、思ったことが言い合える学級となるように取り組んだ。

4段階 非常によくあてはまる ／ かなりあてはまる
／ 少しあてはまる ／ まったくあてはまらない

学級づくりのアプローチ と 評価テスト、小テスト、学習意欲の変化に特徴は見られなかった。

(2)　**仮説2**について

①　学習にかかわる4つの支援と、各テストの個人平均点の変化

【学習にかかわる 4つの支援】	学習意欲の変化	算数テストの変化	国語テストの変化	漢字小テストの変化
放課後や休み時間などで個別に学習指導を行った。	a) 0.42	c) −0.22	0.04	0.02
放課後や休み時間などで、勉強について頑張れる(努力できる)よう個別に教育相談をしたり支援をしたりした。	b) 0.42	d) −0.33	0.13	0.14
教科の授業の中で、学習内容の理解ができるよう、担任が意識して個別的に支援を行った。	−0.02	e) 0.25	g) −0.33	−0.31
教科の授業の中で、発言したり質問したりできるよう、個別的に支援や配慮を行った。	−0.29	f) 0.33	h) −0.24	−0.06

a)　放課後や休み時間などでの個別の学習指導と、学習意欲の変化には相関関係がある。
b)　放課後や休み時間などでの個別の教育相談と、学習意欲の変化には相関関係がある。
c)　放課後や休み時間などでの個別の学習指導と、算数テストの変化には弱い負の相関関係がある。
d)　放課後や休み時間などでの個別の教育相談と、算数テストの変化には弱い負の相関関係がある。
e)　授業中に理解できるような個別の支援と、算数テストの変化には弱い相関関係がある。
f)　授業中に発言できるような個別の支援と、算数テストの変化には弱い相関関係がある。
g)　授業中に理解できるような個別の支援と、国語テストの変化には弱い負の相関関係がある。
h)　授業中に発言できるような個別の支援と、国語テストの変化には弱い負の相関関係がある。

→ 放課後や休み時間などでの個別の学習指導や教育相談は、学習意欲が上がる。
→ 算数の個別支援は、放課後や休み時間ではなく、授業中に行う方が効果が表れやすい。
→ 国語の個別支援は、授業中でない方が良い。

②　友だちにかかわる3つの支援と、被侵害得点、承認得点の変化

【友だち関係にかかわる支援】	承認得点の変化	被侵害得点の変化	友だち関係の変化	学習意欲の変化	配慮の変化	かかわりの変化
対象となる児童に対して、親切にしてくれるクラスメートをあてて支援した。	0.05	a) −0.22	0.02	d) −0.41	f) −0.24	g) 0.28

対象となる児童にかかわっているクラスメートに対して、対象となる児童との人間関係が強くなるように取り組んだ。	0.07	b) −0.38	−0.08	e) −0.48	−0.08	0.16
対象となる児童にかかわろうとするクラスメートが増えるよう取り組んだ。	0.12	c) −0.24	0.27	−0.14	0.08	0.19

a)　親切にしてくれるクラスメートをあてることと、被侵害得点の変化には、弱い負の相関関係にある。

b)　かかわっているクラスメートと人間関係が強くなるようにすることと、被侵害得点の変化には、弱い負の相関関係にある。

c)　かかわろうとするクラスメートが増えるようにすることと、被侵害得点の変化には、弱い負の相関関係にある。

→ 対象となる児童とクラスメートとのかかわりが、より広くより強くなることで、侵害されることが減る傾向になる。

d)　親切にしてくれるクラスメートをあてることと、学習意欲の変化には、負の相関関係にある。

e)　かかわっているクラスメートと人間関係が強くなるようにすることと、学習意欲の変化には、負の相関関係にある。

→ 対象となる児童とクラスメートとのかかわりがより強くなることで、学習意欲が下がってしまう。

f)　親切にしてくれるクラスメートをあてることと、配慮の変化には、弱い負の相関関係にある。

g)　親切にしてくれるクラスメートをあてることと、かかわりの変化には、弱い相関関係にある。

→ 親切にしてくれるクラスメートをあてがわれたことで、クラスメートにに対する配慮がかけるが、クラスメートに関わろうとする傾向がでる。

8　分析のまとめ

（1）　仮説1について

今回の研究目的の一つが、「学級の状況・個人の学級満足度が向上すれば、学習意欲が向上し学力向上に向かうことについてデータをもとにして明らかにする」ことであった。

Hyper−QUの調査に含まれている調査内容のうち、学習意欲との関係からは次のことが分かった。

a) 承認得点と学習意欲には相関がある。友だちからの認められるほど、学習意欲は高い。

b) 被侵害得点と学習意欲には弱い負の相関がある。友だちから嫌がらせを受けると、学習意欲が低くなる傾向になる。

c) 学級の雰囲気と学習意欲には相関がある。学級の雰囲気が高いほど、学習意欲は高い。

d) 承認得点の変化と学習意欲の変化には弱い相関がある。現状より友だちから認められる程度が高まると、学習意欲もやや高まる傾向にある。

e) 被侵害得点の変化と学習意欲の変化には相関がない。現状より友だちから嫌がらせを受けるように変わってきたとしても、学習意欲に変化はない。

f) 学級の雰囲気の変化と学習意欲の変化には弱い相関がある。現状より、学級の雰囲気がよくなっていくと、学習意欲もやや高まる傾向にある。

しかしながら、学習意欲と国語テストには弱い相関があることが分かったものの、学級の状況・個人の学級満足度等と国語や算数のテスト結果との関係について、データをもとにその関係を明らかにすることはできなかった。

⑵　**仮説2**について

今回の研究目的の2つ目が「学力の低い児童や満足度の低い児童へのアプローチや支援方法を合わせて調査することで、効果的なアプローチ方法や支援方法を明らかにする」ことであった。

このことについて、次の結論を得た。

①　学習にかかわる支援について

○ 放課後や休み時間などでの個別の学習指導や教育相談は、学習意欲が上がる。

○ 算数の個別支援は、放課後や休み時間ではなく、授業中に行う方が効果が表れやすい。

○ 国語の個別支援は、授業中でない方が良い。

②　友だちにかかわる支援について

○ 対象となる児童とクラスメートとのかかわりが、より広くより強くなることで、侵害されることが減る傾向になる。

○ 対象となる児童に親切にしてくれるクラスメートをあてたり、対象となる児童にかかわっているクラスメートに対して、対象となる児童との人間関係が強くなるように取り組んだりすると、学習意欲が下がってしまう。

○ 親切にしてくれるクラスメートをあてがわれたことで、クラスメートに対する配慮がかけるが、クラスメートに関わろうとする傾向がでる。